

第2学年 道徳科学習指導案

1 主題名 世界のいろいろな国の人たちと 内容項目 C【国際理解、国際親善】

2 教材名 「ひろい せかいの たくさんの 人たちと」 (出典 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1)主題について

学習指導要領の内容のC主として集団や社会とのかかわりに関することの内容事項「国際理解、国際親善」は、これからのグローバル化に対応する素地を培うために設けられた項目である。指導内容は、低学年の「他国の人々や文化に親しむこと」は、中学年の「他国の人々や文化について親しみ、関心をもつこと」、高学年の「他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること」につながっていく。

2020年に、東京オリンピック・パラリンピックを控え、これから多くの外国の人が日本を訪れることが想定されていることやグローバル化が進展する今日、国際理解や国際親善は重要な課題になっている。これらの課題に対応できるようにするためには、他国の人々や文化に対する理解とこれらを尊重する態度を養うようにすることが求められる。それぞれの国には独自の伝統と文化があり、自分たちの伝統と文化があり、そのことを、我が国の伝統と文化に対する尊敬の念と重ねて理解できるようにする必要があると考える。

そこで、本時では、道徳の「ひろい せかいの たくさんの 人たちと」という資料をもとに、東京オリンピックや世界の食べ物、伝統的な遊びについて知り、他の国の人々や文化に親しもうとする心情を育てたい。その中で、実際にこまを観察したり、回してみたり、実感をもって、世界の文化を体験することで、「世界を知る」ことの入り口として、異文化について、楽しく主体的に学習できると考え、本単元を設定した。

(2)子どもの実態

本学級では、長期休みを利用して海外旅行に行った子どもが、外国の様子について話している場面もあった。しかし、聞いていた友達は、その話の内容を掘り下げて質問するという姿は見られなかった。また、それ以外の子どもたちにとって、海外の文化や生活を知る機会はテレビや画像などに限られ、海外の文化や生活に対する興味は高くない。

本時で扱うこまについては、1年生のときに生活科の「昔あそび」でこま回しやけん玉に取り組み、2年生になっても雨の日の休み時間にはこまで遊ぶ様子があり、興味を深めていた。

知っている外国の国名や外国の食事、遊びについて実態調査をした。

①海外で知っている国はありますか。 ある・・・15名 ない・・・3名

②それは何という国でどんなことですか。(複数回答可)

国名	人数	知っていること
フランス	7名	・フランスパンがある。(4名) ・サッカーが強い。(3名)

アメリカ	7名	・プールがある。(3名) ・海がきれい(1名) 該当の答えなし(3名)
インド	6名	・インドカレーがある。(3名)
ブラジル	3名	・サッカーが強い。
韓国	2名	・行ったことがある。
クロアチア	1名	・サッカーが強い。
オーストリア	1名	・ニュースで知った。
ポーランド	1名	・ワールドカップに出ていたから。

③海外の食べ物で知っている物がありますか。

ハンバーガー	・・・2名	バナナ	・・・1名
ソーセージ	・・・2名	ナン	・・・1名
インドカレー	・・・1名	わからない	・・・11名

④海外の遊びやスポーツで知っているものはありますか。

サッカー	・・・1名	ダンス	・・・1名
ラグビー	・・・1名	わからない	・・・15名

〈考察〉

①②の調査から、3分の2以上の子どもが外国の国名を知っていることが分かった。国名を見てみると、フランスやアメリカなどの一般的に先進国と呼ばれている国とインドやブラジルなど生活に馴染みの深い国を挙げる子どもが多かった。また、知っていることについては、「食べ物や、スポーツ」などが挙げられた。食に関しては、「カレーやフランスパン」と答え、給食や身近な食生活が関係していると考えられる。「サッカーが強い」と答えた背景には、今年の夏行われたロシアワールドカップがあると考えられる。これらのことから、子どもにとって身近な国とは、テレビなどのマスメディアにより、取り上げられることが多い国や食べ物などの子どもの生活の近くにあるものに関係した国が多く、他国に興味を向けていることも分かった。

③の結果から、子どもが知っている海外の食べ物の多くは、普段子どもが、給食や日常生活の中で食べている物が多かった。一方で、11名の子どもたちが分からないと答えている。しかし、海外の食べ物を食べたことがないということではなく、自分が食べているものが、自国のものなのか、他国のものなのかを区別することは、難しいと考えられる。

④の結果から、海外が発祥で日本でも馴染みの深いスポーツを知っている子どもは若干いた。しかし、それらの遊びは、子どもたちの生活に身近なものやTVで取り上げられているものに限られていた。

以上の実態調査から、本単元で扱う世界の料理や遊びは、子どもたちが初めて知ったり経験したりすることから、意欲的に学習に取り組めると考えられる。また、本時で扱う教材のこまは、1年生の生活科で既習し、遊び方に慣れていることもあり、無理なく学習に取り組めると考えられる。

(3)教科用図書について

本教材は、東京オリンピック・パラリンピック大会を視野に入れて、他国の遊びや料理を知り、他国の文化に親しみをもてるようになっている。そこで本時では、世界のこまを観察したり、回してみ

たりする体験を通して、他国の文化に親しみ、関心をもてるようにしたい。

4 研究主題との関連

千葉市教育研究会 国際理解教育・外国語活動部会 研究主題
心の国際化から、共に生きる社会へ
－国際性豊かな児童生徒の育成を目指して－

「心の国際化」とは、国籍や肌の色、宗教などに関わらず相手を理解しようとし、偏見や思い込みを持たずに互いを理解し、協力する想いをもつことだと考える。道徳教育では、「社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うこと」を目標として掲げている。低学年である子どもたちに社会の平和と発展について考えるのは難しいと思われるが、子どもたちが、世界に目を向けるきっかけとなるよう、国際理解教育を取り入れた道徳の学習を行いたいと考えた。目の前の子どもたちが、中学年・高学年、そして、中学生と成長していく際に、国際感覚豊かな考えや行動ができるような系統性を考えて、まずは、本時を通して、「世界の文化や遊びに親しむ」ところから始めていきたいと考える。

本部会の研究課題の1つである「自国文化や異文化の理解と国際的視野の修得」の解明のための方策として、本年度は「自国文化や異文化の理解のために体験活動、在外教育施設派遣教員の報告会、関連施設の見学等を通して国際的視野を広める」が挙げられている。

そこで、本時では、「自国文化や異文化の理解のための体験活動」に焦点を当てて、学習を進めていく。道徳で世界の遊びや料理について触れることで、自国文化だけでなく、他国の知らない文化に触れ、親しめるよう設定する。その一つとして、世界のこまを観察したり、回したりする楽しい体験活動を取り入れる。こまは、世界各国で昔から親しまれている文化の一つである。素材や形、回し方など、その国々の特徴が反映されており、異文化理解において適している。世界の伝統的な遊びであるこまを体験することにより、他国の文化に親しもうとする心情を育てていきたいと考える。また、1年生の生活科で、「昔遊び」を体験している子どもたちは、日本の伝統的な遊びを楽しんでいることもあり、意欲的に学習に取り組めると考える。

6 本時の指導

ねらい

他国のこまにふれることを通して、他の国々の人々や文化に親しもうとする心情を育む。

	学習活動	主な発問 (○) 予想される児童の反応 (・)	教師の支援 (・) 評価 (※)	資料
導入	1 世界の国旗クイズを行う。	○この国旗は、どこの国のものですか。 ・インドネシア・ドイツ ・アメリカ ・インド ・イギリス ・韓国など	・今まで触れてきた世界の国旗クイズを全員で行い世界の国々に目を向けさせる。	・国旗カード ・世界地図
展開前段	2 世界の遊びや料理を知り、話し合う。	○絵を見てどのようなことに気付きましたか。 ・ドイツのこまは、人形の形をしている。 ・インドネシアのじゃんけんは、指の形が違う。 ・アメリカの凧は、本当にたこみたいだね。 ・フランスでは、かたつむりを食べるんだね。	・たけしの話を紹介し、世界の遊びや料理に目を向けさせる。 ・視覚的に捉えやすいようにする教科書を拡大掲示する。 ・子どもの発言を共感的に受け止め、学習の意欲を高める。	・拡大写資料
	3 世界のこまを体験する。	○いろいろなこまを見たり、回したりして、その国のこまの素敵なところや日本のこまと似ているところ、違うところを見つけましょう。 ・韓国のこまは、紐を使っているね。 ・ドイツのこまは、人形の形をしていたね。	・3つグループを作り、時間を区切って、全ての国のこまを体験できるようにする。 ・安全に活動できるように支援する。 ・うまく回せない子どもには、回し方を教える。	・ドイツ インド 韓国 イギリスのこま
展開後段	4 世界のこまを体験した感想やもっと知りたいことについて話し合う。	○回してみてどんなことに気が付きましたか。 ・韓国のこまは、日本と同じでひもを使って回すんだね。	・児童から出た考えを、日本のこまとの共通点、相違点に着目し整理して板書することで、その国独自のよさや日本との	

<p>ま と め</p>	<p>5 今日の学習で感じたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツのこまは、人形の形をしていて、日本のこまとは少し違うな。 ・世界でも、日本と同じ遊びで楽しんでいるね。 ○ほかの国のことで、もっと知りたいと思うことはどんなことですか。 ・世界の料理についてもっと知りたい。 ・世界のこまをもっと知りたい。 <p>○今日の振り返りをプリントに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は楽しく活動できたな。 ・海外のことをもっと知りたくなったな。 	<p>共通点、相違点に気付けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書くことができない児童には、板書を参考にしたり、今日初めて知ったことを書いたりするよう助言する。 <p>※他国の伝統や文化に親しもうとしている。</p> <p>【国際理解・国際親善】 (ワークシート)</p>	<p>・ワークシート</p>
----------------------	----------------------------	--	--	----------------